

(2) 事業実施報告②

全体活動

(1) 会議

■ 第 12 回(2015 年度)通常総会

日時 2015 年 5 月 16 日 (土)

場所 あまが池プラザ 参加者 68 名

内容 2014 年度事業報告並びに決算報告の承認

2015 年度事業計画(案)並びに活動予算 (案)の承認

総会記念講演 増田 昇 氏

演題 「守山の環境や風景づくりから見た農地の多面的価値」

■ 運営委員会 毎月第 3 木曜日開催

■ 環境保全学習事業部会 毎月第 1 木曜日開催

■ 環境情報発信事業部会 毎月第 1 木曜日開催

■ その他事務局会議、各委員会など 随時必要に応じて開催

(2) 第 12 回 (2015) 守山ほたるパーク & ウォーク

実施期間 2015 年 5 月 29 日 (金) ~ 6 月 7 日 (日)

実行委員会構成団体 25 団体

期間中のボランティア延べ 約 600 人

ホタル飛翔数 約 3,000 匹

観賞者数 約 3 万 7 千人

2015 年のホタルの飛翔は例年より 10 日ほど早まり、パーク & ウォーク開催期間に、ピークを合わせることが出来なかった。近年少しづつ飛翔時期が早まる傾向にあることから、2016 年度はパーク & ウォークの開催期間を 1 週間繰り上げて計画することとした。

また、シャトルバスを無料にし、バスガイドを添乗させたことは、観賞者からたいへん喜ばれた。更に構成団体の活動の自主性を尊重した運営を行ったことで、協力団体の満足度の向上も図ることができた。

(3) 認定 N P O プロジェクト

2015 年度も認定 N P O 法人存続のための、P S T (パブリックサポートテスト) をクリアするとともに、基盤強化としての資金調達のため、理事を中心に、守山ほたるサポーター (3,000 円以上の寄付者または賛助会員) 獲得のために、活動した。

この認定 N P O 法人取得により、寄付者への税額控除が適用されるようになった。

安定的財源で当法人の活動の発展と次世代に継承する土台を築き上げるためにも、継続的な「守山ほたるサポーター」の獲得に努めたい。

守山ほたるサポーター (2015 年 4 月 1 日 ~ 3 月 31 日現在)

賛助会員 107 名 (個人 86 ・ 団体 21)

寄付 45 名 (個人 44 ・ 団体 1)

(4) オオバナミズキンバイ除去プロジェクト

特定外来生物のオオバナミズキンバイの除去を、県の大規模な機械刈りと、ヨシ帯の中などの、人力でしか除去できない作業を連携して行うことで、生息範囲の縮小をめざして活動を行った。また、2015年度は、赤野湾の流入河川のひとつ「新守山川」の除去作業を、地元住民と共に重点的に行った。一方で、特定外来生物指定植物の、オオバナミズキンバイの取扱いの注意点など、学区民のつどいなどで啓発広報を行った。

プロジェクトメンバー

小津自治会長会・玉津小津漁業協同組合・新守山川を美しくする会・国際ボランティア学生協会・滋賀銀行・市役所・認定NPO法人びわこ農穀の郷

また、「外来植物対策協議会」へも参加し、滋賀県との情報共有を行った
2015年度で夏原グラントの助成が終了したことから、2016年度も本活動を続けるための資金調達を計画している。

オオバナミズキンバイ除去作業

日時	参加人数（人）	刈取面積（m ² ）
2015年6月28日	240	180
〃 9月12日	91	200
合計	331	380

(3) 特定非営利に係る事業

①ホタルの調査、飼育及び研究事業 11,506,363 円

事業内容

(1) 守山市ほたるの森資料館指定管理運営

ほたるの森およびほたる河川の維持管理を行うとともに資料館その他施設を修繕して安全に観察できる場所の拡大をめざした。

- 展示物を主とした館内設備を充実させ、研修受け入れ等来館者の増加につなげた
 - ・ホタルおよびカワニナに関する新規展示を行なった。
 - ・学習室兼展示室内の設備を充実させた。
 - ・守山ほたる会および「もひかプロジェクト」との事業協同化で資料館を有効活用した
- 守山ホタル研究室の維持管理
 - ・ホタル研究室を維持管理し、幼虫飼育量の増加、飼育技術向上およびその普及を目指した。
- 守山ほたるパーク&ウォーク
 - ・期間 5月29（金）～6月7日（日）
 - ・夜間開館の実施
 - ・市民運動公園内散策コースの安全対策を実施
- 市民運動公園再整備計画への参画
 - ・ホタル飛翔区域の確保および生存可能な環境づくりについて提言を行なった。

(2) ホタル環境調査

■ ホタル飛翔調査

期間：5月18日(月)～6月17日(水)

調査地点：パーク&ウォーク散策路及び、守山市ほたる条例第5条の規定に基づき定めた保護区域（ほたる河川）

(3) ホタル飼育、研究

- ホタル講座 (全8回実施) 一般募集 (延べ20名の参加)
- 環境学習会 (全2回以上実施) 一般募集 (合計52名の参加)
- ホタル及びカワニナの飼育および研究 (通年)
- 市内外河川の各種 (水質、水生生物、河川構造等) 調査 (通年)

②環境情報発信事業

1,654,352 円

事業内容

(1) ホームページの充実

当法人の定款及び組織などの広報

- 豊穣の郷ホームページ、フェイスブックページの管理、運営。
行事予定、行事終了後の報告など、活動を広く周知するため、随時更新を行った。
当法人の会員への加入や各行事への参加などのインターネットからの申し込みや、
ホームページなどを見て研修受入れなど、様々なメディアからの問い合わせも増え
てきた。
フェイスブックで当法人のページのファンとして登録して下さる方は、国内のみな
らず、海外からのアクセスがあった。

(日本 132 タイ 2 アメリカ 2 エジプト、台湾、ルワンダ 1)

(2) 機関誌の発行

- 豊穣の郷だより 71号～74号を発行 (4月、7月、10月、1月)
機関誌を通じて、当法人の活動を広く周知

成果と課題

2015年度は、年4回 各1500部を発行した。

紙面レイアウトや打ち込みが出来るスタッフがいないため、事務局に作成を依頼してい
るが、今後は紙面作りまで部員でできるよう、メンバーの確保が重点課題となっている。

(3) 学区民のつどい等情報提供

水環境保全の大切さを広く啓発し、市民の意識向上に繋げることができた。

活動内容

- びわこ地球市民のつどい 5月24日(日) 体験参加約100名
ヨシ細工体験(ブーブー笛)
- びわ湖環境フェスタ 7月20日(月・祝) 青年会議所主催のイベント
環境啓発パネル(オオバナミズキンバイの生態と活動紹介)
- もりやま環境フェア 9月6日(日) クイズ参加約150名
環境啓発パネル(オオバナミズキンバイの生態と除去活動の紹介)
環境エコクイズ(ゴミの分別クイズ)実施 クイズ参加者約150名
- 学区民のつどいに出店 クイズ参加合計約320名
玉津(10/10)、守山、速野(10/18)、小津(10/25)
環境啓発パネル(オオバナミズキンバイの生態と除去活動の紹介)
環境クイズ(オオバナミズキンバイ・ホタルの生態に関するクイズ)
- もりやま市民活動屋台村 11月21日(土)～22日(日) クイズ参加約40名
長尾理事長 講演「提案型まちづくりのための施策」
環境啓発パネル
環境エコクイズ、環境クイズの実施

成果と反省

参加賞として、花苗などを渡したことも効果をあげ、クイズへの参加者は多かった。

また、クイズの内容とパネル展示の内容を関連付けたので、多くの人にパネルを見てもら
う事ができ、オオバナミズキンバイの生態や当法人の活動などに興味を持ってもらえた。

(4) 地域情報ネットワークづくり

目的

地域で取り組んでいる川づくりの技術や経験、活動を共有化し広報する。

活動内容

市内の各地域で取り組まれている川づくりを支援し、その情報を収集するとともに共有を進めるため、活動内容や成果をホームページで公開する。更に地域間の交流を深めるため、学識者の講演会と併せ地域や水環境に関わる団体の成果発表を行なった。

■ 第13回川づくりフォーラム

～ 里中川から赤野井湾へ ～ (参加人数 58名)

開催日時：1月17日（日）

開催場所：守山市コミュニティー防災センター（北消防署）

基調講演：「保津川の自然・文化の魅力を高める環境保全活動」

～観光からの視点～

プロジェクト保津川 豊田 知八 副代表

活動報告：小津学区まるごと活性化委員会の取り組み
小津学区

概要説明：第2次守山市環境基本計画

守山市環境政策課

パネル発表：国際ボランティア学生協会、守山水辺百選研究会

パネル展示：オオバナミズキンバイ除去プロジェクト



成果と課題

日常我々は「水に流す」という言葉を使うことがある。過去のことをとやかく言わずなかつたことに対するという意味で使うがゴミまでも簡単に水（川）に流してしまう事がある。河川を汚すゴミの問題に保津川で向き合っておられる保津川下りの船頭さんの声を聴いた。

プロジェクト保津川 豊田 知八 副代表

■ ホームページ講習会の実施（自治会ホームページ担当者向け講習会）

成果と課題

本年度より勝部自治会・閻魔堂自治会・二町町自治会のホームページをリンク集に加えた。現在8自治会のホームページが閲覧可能となっている。引き続き、各自治会向けのホームページ担当者への無料講習会を持つ予定。

(5) 守山の水辺百選

目的

- ・守山の水辺に対する愛着、興味をもてるよう意識啓発を図った。
- ・「守山の水辺百選」の充実のため検証と編集作業を行った。

活動内容

地域住民とともに選定された「守山の水辺百選」周知のため、水辺百選の中からテーマを決めて地点を選び、講座を持ち、水辺への愛着を深め水環境への関心につないだ。

■ 第6回水辺百選講座 (参加人数 15名)

～おらが自慢の水辺探訪～ (バスにて野洲川沿いめぐり)

開催日時：11月1日（日）実施 *No.は水辺百選の整理番号

探訪場所：蜊江神社 (No. 58) → 川田大橋 (地点 No. 62) → 田空博物館 → 新庄大橋 (No. 77) → 地球市民の森 (No. 72) → 鮎屋の郷 (昼食) → 鹿嶋神社 (No. 80) → 帰着

成果と課題

2015年度は、バスを使って野洲川下流域の地点を廻り改修の歴史も学習した。特に田空(野洲川田園空間博物館)では過去の野洲川の映像をDVDで見ることができ印象深かった。その結果生まれた「地球市民の森」がより立体的に見えてきた。

地元の方に語って頂いた「鹿嶋神社」の歴史、「蜊江神社」の言われも上手く野洲川の歴史に絡んでもらえた。

(6) 先進地研修・研修受入れ

目的

他団体と共に活動することで、その取り組みを共有し、当法人の活動に活かした。

先進地研修 (参加人数 13人)

日 時 8月5日（水）

内 容 瀬田川でのシジミ採り体験のあと 講演「セタシジミについて」

講 師 吉田 守 瀬田漁業協同組合 組合長

テマ 瀬田シジミの 歴史、現状、対策

・「シジミ採り」体験の後 びわ湖博物館に立ち寄り 16時過ぎ帰着

なお、当博物館は夏季の猛暑対策の一環で入場料は無料。

成果と課題

・昭和32年には滋賀県で漁獲量は6,000トン以上 平成11年には104トンに。湖南3組合では平成12年10トン 現在では2.5トンまで激減。乱獲と砂や砂れきの減少、水草の異常繁殖など様々な問題があるなか平成18年から仔貝の放流や漁獲サイズの引き上げ、水草の除草等の対応をしている。

以前の状態に戻すことは大きすぎる課題であることをあらためて認識させられた。今後もこのような会員が興味を持ち、是非参加したいと思えるような研修会を企画したい。



シジミ採り体験（瀬田川）

以下の通りの研修受入れを行った

研修受入れ状況

団体名	守山市立守山中学校	29人
日 時	9月10日(木)	
内 容	環境学習(赤野井湾の水質調査とオオバナミズキンバイの調査)	
団体名	近畿労金	17人
日 時	3月5日(土)	
内 容	びわこ豊穣の郷の活動紹介とホタルの生態の説明・資料館ほたる河川の清掃作業	
団体名	滋賀県立守山高等学校	17人
日 時	3月13日(日)	
内 容	環境学習とオオバナミズキンバイ除去活動	
団体名	市立守山中学校	4人
日 時	3月13日(日)	
内 容	環境学習とオオバナミズキンバイ除去活動	
団体名	JTB	23人
日 時	3月13日(日)	
内 容	企業CSR活動(湖岸清掃)	

(7) 市民による環境白書

目的

市の環境の状況を取りまとめ、市民が守山市の環境について学習することにより、より良い環境づくりに繋げる。

活動内容

2014年度の環境実績を基に、河川および赤野井湾の水質汚濁状況、環境保全への取り組み、環境を守る市民運動の取り組み、地球温暖化対策などを取りまとめ、「守山市の環境」として作成および印刷。

■ 「守山の環境」(平成27年度版)発行 (300部)

従来の環境実績の公表や守山市での様々な団体の活動紹介のほかに、ゴミの減量に関する取組みや、守山の水辺百選から抜粋した、水辺に親しむ環境の紹介を掲載した。

③環境保全学習事業

2,061,902円

事業内容

(1) 目田川モデル河川づくり

目的

地域の川づくりに役立てるため、理想的な川づくりのモデルとしての活動を行った。

活動内容

- ・川の現状をできるだけ自然の姿に保ちつつ整備し、水辺の遊びと憩いの場を提供し、市民の水辺への関心を喚起するモデル的な河川をつくった。
- ・目田川の水質調査を継続的に行う中で、調査結果から得られたものを生かした河川環境づくりに取り組んだ。

- ・川の環境を観察、記録し、その環境の変化を子どもたちや市民に提供した。
- ・地域や他団体との連携を図り、協働による河川づくりに努めた。

■ **目田川モデル河川づくり** (参加人数 延べ 141 名)

作業日：毎月第3土曜日（雨天時は翌日に順延）

4月～9月 8:30より・10月～3月 9:00より

作業場所：目田川河川公園

協力団体：レイカディア大学目田川会、湖南ホームタウンほか

（インターナシップ研修学生：龍谷大学、神戸大学、滋賀県立大学など）

作業内容：

1 基本作業

(1) 雜草の刈り取りおよび除去

(2) ごみ拾い

(3) 水質調査 (PH/COD/窒素/リン酸等)

2 河川づくり作業

(1) 水辺の生きもの、植物等の変化観察

(2) 中州の維持管理およびその周辺の水辺の整備

(3) 憩い・休息の場づくり（植樹による日影づくり）

(4) ゲンジボタルの生息に適した環境の維持管理

成果と課題

大変な作業だが 15 年継続して活動を続けてきたおかげで、昔の小川の姿を取り戻し、市内で一番多くのホタルの飛翔が観られるようになってきたことで、多くの市民が訪れ、親しまれる河川へと変わりつつある。

当法人の会員だけでなく、他団体との協働や、小さな子どもの参加もあり、辛い反面、やりがいのある活動となっている。

今後も引き続き、点検などの見回りも行い、修復や泥揚げなどの整備作業を行う。

参加者が固定化し今後多くの会員の参加を呼び掛ける必要がある。

(2) 河川水質調査

目的

- ・河川の実情把握と対策の資料作成
- ・住民への啓発
- ・河川の水質改善

活動内容

地域住民による、河川の水質、水量、水辺環境などの調査を実施し、そのデータから経年変化を調べて水質改善対策や環境学習の資料とする。

※パックテストによる水質調査 (PH/COD/窒素/リン)、データの保存と公開

■ **河川水質調査**

調査時期：代かき時、5月、8月、11月、2月と6月 身近な水環境の全国一斉調査

調査場所：市内 8 河川 80 か所

（法竜川、三反田川、天神川、金田井川、守山川、新守山川、山賀川

堺川及び中州学区の里中川とこれらの分流河川）

成果と課題

守山市内 80 か所の水質調査を行った。しかし、全部の箇所の計測は大変だった。

今後は調査員の増員が必要。

(3) 水生生物調査

目的

- ・河川の実情把握と対策の資料作成
- ・住民への啓発
- ・河川環境の改善

活動内容

- ・地域住民による赤野井湾や流域河川の水生生物等の生息状況を調査することで、水質調査との比較、川の構造、生き物に優しい川づくりを模索した。
- ・調査結果を環境学習に活用できるよう表にまとめた。

■ 親子で秋の水生生物を見つけよう (参加者 13 人)

開催日時：11月 28 日（土）

活動場所：吉川川、目田川、井上川、ミソウチ川

内 容：観測地点の水質調査及び、水生生物の採取を行い、その種類などをもとに、講師の指導で水辺の状態を考察した。

講 師：上西 実 氏（龍谷大学教授）

■ 目田川の生きもの図鑑発行。

■ 目田川を通して、守山市内河川で見られる水生生物などの図鑑を発行

成果と課題

生き物の採取の仕方や拡大モニターで観察するなど参加した子ども達は学校では学習出来ない体験ができたと喜んでいただけた。

地域の方々がもっと川に関心をもってもらうことが多くなるよう検討する。

(4) 水辺の楽校

目的

子どもたちに水環境学習の場を提供し、地域の環境リーダーを育成する。

活動内容

- ・子供たちに水辺環境の意義や大切さを学んでもらうため、ホタルの放流を通して体験学習を行った。
- ・水辺の遊び場や憩いの場として、市民の理想的な河川づくりを目指している目田川を活用して開催した。
- ・子ども環境リーダーを育成した。

■ 水辺の楽校 夏編・秋編・春編 (参加者 延べ 183 人)

開催日

開催場所

夏 編 8月 22 日

目田川河川公園

秋 編 12月 5 日

守山市民運動公園内ほたるの森

春 編 3月 26 日

目田川河川公園

内 容

清掃活動や、植物、水生生物などの観察、ホタルの話や、放流、bingoゲームを取り入れた自然観察などの活動を通して、水辺に親しみ、参加者とともに体験型環境学習を行った。またマイクロプラスチックに目を向け清掃活動で集めた目田川のごみを分別し調査を行った。

成果と課題

毎年募集開始わずかで定員となる程人気がありリピーターも多い。参加者と共に作り上げていくイベントを心がけた結果、自主的に手伝って頂き参加者からも好評を得ている。

マイクロプラスチックの話は参加者にも水辺の環境保全の意識の向上ができた。今年は天候に恵まれ、すべての楽校は無事終えることが出来た。また子ども向けスタンプラリーを実施し3回以上参加した子ども達（6人）に記念植樹（センダン）をしてもらうことで、次に繋げる事ができた。時期に応じて雨天用のプログラムも用意し、更に参加者の安全確保に留意したい。

(5) 第18回赤野井湾探検会

目的

- ・河川と赤野井湾（琵琶湖）の実情把握と水質相関の確認
- ・体験学習

活動内容

- ・湖上からの赤野井湾や琵琶湖の実情観察、湾内調査や稚魚の放流を通して、体験学習を行った。

■ 第17回赤野井湾探検会（参加者40人）

開催日時：7月25日（土）

開催場所：赤野井湾水域と漁村センター（木浜漁港）

内 容：魚つり体験（外来魚駆除）、ニゴロブナの放流、赤野井湾での水質調査、
水生生物採取 外来魚などの解剖、湖魚料理の昼食など

講 師：芳賀裕樹 学芸員（滋賀県立琵琶湖博物館）

赤野井湾の湖底や水草のお話

成果と課題

今回は赤野井湾に作られている消波堤の内側と外側の水質や湖底の調査を行い水草や湖底の様子など違いがある事がわかった。参加した子ども達は「うみのこ」とは違う体験ができ今まで以上にびわ湖に関心をもてた（アンケートより）また湖上からオオバナミズキンバイの生息状況も見て頂き赤野井湾が抱える問題点を感じ取ってもらえた。

昼食は今までと違い弁当にしていただいた事で残食も無く良かった。

今年も漁船の老朽化により使用ができず高速船になった為赤野井湾の湖岸まで行けなかった。探検会なので湖上から湖岸の様子を見てもらいたかった。

(6) 赤野井湾・小津袋クリーン大作戦

■ 第7回赤野井湾・小津袋クリーン大作戦（参加者 約136人）

開催日時：3月13日（日）

開催場所：琵琶湖赤野井湾湖岸・小津袋一帯、新守山川、法童川河口

内 容：地域住民、魚業協同組合、企業との連携で湖岸周辺の清掃活動と
特定外来生物「オオバナミズキンバイ」などの除去作業。

ゴミ	総重量	540 kg
オオバナミズキンバイ	総重量	0.5t

成果と課題

今回は赤野井湾再生プロジェクトの新守山川オオバナミズキンバイ除去作業と同時開催となりました。小津学区や玉津学区、玉津小津漁業協同組合から多くの参加をいただけた。また県立守山高等学校・中学校やJTBから研修としての参加もあった。開会式を省略しすぐに作業に取りかかれた事は良かった。全国水辺のごみ調査に伴い回収した赤野井湾のごみを分別し調査を行った。

清掃作業でタイヤやガスボンベ バッテリーなど搬入出来ないものがあり処分に困った
今回は、市役所で対応して頂いたが、今後この件について検討を要する。

